



合衆内國
王國
稅年報編纂書

第三編



114
A1842
37



合衆
國稅
年報
編纂
三編

甜菜根ヲ以テ酒精ヲ蒸餾スル事

酒精蒸餾法ト密附ノ關係ヲ有シ吾人ノ最モ注意ヤカル可クテ
サル者ハ甜菜根ヲ以テ酒精ヲ蒸餾スルノ一事即チ是ナリ抑々
甜菜根ヲ以テ酒精ヲ蒸餾スルノ法タルヤ始メ仙國ニ行ハレ尋
テ千八百五十六年頃ニ及テハ將ニ之ヲ英國ニ誘入セントスル
ニ至リシク原未此蒸餾法ハ我税法ノ許サ、ル所ナリト雖也既
ニ「ヤント州」ノ「ワロ」ニシグハムニ於テ廣大ナル製造場ヲ建築
シ其法ヲ試験セント欲スル者アルヲ以テ本寮ニ於テハ之ヲ阻
礙スル無ク彼州ノ自由ニ任スルノ却テ其當ヲ得タルハキヲ信
シ收税吏負ヲ派遣シテ恒ニ其作用ノ方法ヲ監視セシメタリ然
ルニ此吏負ノ報道スル所ニ於テハニ訣場創立ノ初年即チ千八百

大正十一年四月
大隈侯爵寄贈

及々其翌年ハ満足ノ結果ヲ呈セス損益相償ヲ能ハサリシカ故
ニ本寮ニ於テハ必ス其冀圖ヲ廢絶スルニ至ルニシト臆想シタ
ルニ豈料ラシヤ此蒸餾ニ使用スヘキ器具ヲ發明シテ專賣免許
ヲ有スルトドレイ氏ハ益々此製造ヲ廣大セシトテ計リ各地ノ土
質ヲ相シテ甜菜ヲ栽培シ以テ其試験ヲ施スニハ應分ノ保護ヲ
受ケサル可ラサルヲ請願セリ依テ本寮ニ於テハ閣下ノ裁可
ヲ經テ合衆王國內ノ各地ニ十二ヶ所ノ製造場ヲ築造シ得ヘキ
トテ允可シ其築造ノ場所及々製造ニ関スル人負ハ一ニドレイ
氏ノ撰択スル所ニ任シタリシカ千八百五十七年ニ至テハ僅ニ
十ヶ所ノ製造場ノミシク蒸餾ニ從事シ而シテ其得ル所ノ酒精
ハ粗悪ニシテ飲料ニ供スルニ足ラス随テ損益相償ヲ能ハサルニ
至レリ

千八百五十八年ニ於テハ製造場ノ數ハ減シテ七ヶ所トナリ其
翌年ニ至テハ更ニ減シテ四ヶ所トナリシカ千八百六十三年ニ
及テハ其衰態益々甚シク終ニ其創業ヨリ七ヶ年ヲ經テ全ク之
ヲ廢絶シ其間曾テ利益アルニ至ラズ蓋シ其製造ノ末期ニ及テ
ハ頗ル其質ヲ改良スル所アリト魚肝油ヲ混和スルノ外
ハ敢テ其他ノ使用ニ供スルニ足ラザリキ
甜菜根ヲ以テ酒精ヲ蒸餾スルノ利潤ナギヤ此ノ如クナルニ拘
ハテス千八百六十九年或ル地ノ所有者ハ再ヒ其挙ヲ回復セシ
トテ計リシカ此回ニ於テハ従前ノ如ク本寮ノ保護ヲ受ケス一
般ノ蒸餾法ヲ遵守シテ其業ヲ營ニトテ約セリ

酒精密餾ノ事

酒精ノ密餾ハ多ク英倫ノ市府ニ於テ行ハレサル無シ而シテ之
ノ密餾スルニハ必ス精密ヲ使用シ其作用ノ方法ノ甚ク簡便ナ
ルヲ爲ノニ河水ノ便ヲ得ルノ地ニシテ之ヲ行ノ可ラサルハ無

フ蓋シ
一五倫ニ付キ十司令ノ重税ヲ課スル
ニ拘ハラス既ニ密酒至テ一五倫ニ付五司令乃至五司令六
辺厄ノ虞價ヲ以テ之ヲ販賣スルモ尚其實益ナリトセハ其勢遽
ニ密酒ノ惡弊ヲ埤滅ス可ヲカルヤ必矣然リト雖モ本寮ニ於テ
ハ嚴ニ酒精ノ密酒ヲ禁遏シテ頗ル其功ヲ奏シ敢テ市場ノ價位
ヲ攪動ス可ヲカルノ域ニ及ヒタレハ苟モ此際ニ於テ政府ノ歳
入ヲ損シ意直ノ商賈ヲ害スルノ甚シキニハ至ラザルハシト思ハ
ル

十八百五十年ニ於テハ倫敦府内酒精ノ密酒盛ニ行ハレ其勢畿
益々甚シキニ及ヒシカ故ニ分府内ニ於テ國產税局ノ分局ヲ設
ケ数名ノ吏員ヲシテ專ラ密酒ノ抑壓ニ從事セシノ又全時ニ國
產税局ノ官吏ニ特權ヲ付与シテ之ヲ各地ニ派出シ首府ノ巡查
及ヒ地方巡查ヲ指揮シテ大ニ密酒者ヲ搜索セシメタリシカ為

ノニ發覺スル者數十百人ニ及ヒ其偶々遁ル者ハ黨類ノ白狀ニ
依テ緊子縛ニ就キシヲ以テ或ハ禁獄ニ處シ或ハ贖罪金ヲ追徴シ
テ其罪ヲ宥シメレハ終ニ千八百五十三年ノ終ニ及テハ殆ント
酒精ヲ密酒スル者ナキニ至レリ

抑モ此密酒酒精ハ多クハ仮漆製造者仙蘭西磨器者製帽者及ヒ
其他ノ諸製造者ニ販賣シタリシカ千八百五十五年石腦油混和
酒精ヲ無税ニテ製造ニ供スルヲ得ハシトノ法令ヲ發シテヨリ
大ニ密酒ノ氣焰ヲ撲滅シタリ今茲ニ其証左ヲ示サンニ千八百
五十年英倫ニ於テ犯罪人ヲ捕縛スルノ數ハ五百五十一名ナリ
シニ千八百五十三年ニ至ラハ二百八十八名ニ減シ又千八百五
十五年ニ於テハ何々其數ヲ增多シテ三百二十一名ニ及ハサト
魚石腦油混和酒精ヲ使用ヲ允可スルノ後千三年ヲ終テ千八
十八年ニ及テハ其數著ルキ減シテ百九十四名トナリ終ニ

六十九年第三十一日ニ終ル年度間ニ於テ僅ニ四十
一名アルニ至ル意ヲ犯罪人ヲ發覺スルニ其數ノ減スル故ヲ
以テ酒精ノ密蝕一全ク其跡ヲ絶クルナリトハ斷言ス可ラスト
至氏從來本寮ノ實驗スル所ニ拠レハ亦以テ密蝕ノ盛衰増減ヲ
卜スルニ足ルナシトセス果シテ然ラハ令ヤ英倫ニ於テハ殆ント
酒精ヲ密蝕スルノ弊風ヲ一掃シタリト云フモ敢テ誣言ニ非ヤ
ルヘシ

蘇格蘭ニ於ケル酒精ノ密蝕ニ関シテハ令ヤ大ニ満足ノ意ヲ表
スルニ足ルヘキ者アリ是ヨリ先キ千八百二十三年ニ於テ全国
ノ酒精稅一瓦倫ニ付キ六司令ニ辺尼ヲ課スルノ時ニ方テ酒
精ノ密蝕盛シニ行ハレ當時之ヲ抑壓スルノ方法ハ唯其稅率ヲ
減却スルノ一路アルニ至リシカ故ニ遂ニ二司令四辺尼ニ迄減
シタリ然ルニ令ヤ蘇格蘭ノ酒精稅ハ一瓦倫ニ付キ一司令ノ重

キニ至ルモ曾テ密蝕ノ跡ナキカ如シ
千八百二十三年茅七月五日ニ終ル年度間ニ蘇國ニ於テ酒精ノ
密蝕者及ニ麦芽ノ密造者ヲ逮捕シテ求刑シタル數ハ千四百名
ナリシカ千八百五十六年ニ至テハ四十八名ニ減シ而シテ其中
多クハ輕罪ノ違犯者タルニ過キス其後十年ヲ経テハ僅ニ十名
ノ犯罪人アルニ及ヘリ
蘇格蘭ニ於テ酒精ヲ密蝕スルノ弊風一変シテ殆ント其跡ヲ絶
ツニ至リシ原因ヨリ推シテ愛爾蘭ノ事蹟ニ及ホスルハ實ニ感
慨ニ堪ヘタル者アルヲ覺ルナリ蓋シ蘇國ノ此域ニ至ルマ事際
ノ徵証スルニ足ルヘキ者ナシト至氏憶ニ地主或ハ家主才恒
ニ其所有地ニ住居スル者ヲ戒メテ酒精ノ密蝕ヲ禁遏セシメタ
ルニ依ルヘシ若シ然ラスンハ談地一般他人ノ密蝕ヲ曲庇スル
俗ニシテ安シクハ斯ノ如クナルヲ得シヤ然ルニ愛爾蘭

テ曾テ此事アル 見サレハ宜ニ歎スヘキニ非スヤ

蘇格蘭人ハ原未ニ麥ヲ以テ製セル酒精ヲ嗜ミ入酒精ノ質善良ニシテ香味ヲ加ヘタル者ヲ好ムノ癖アリ然レニ密餚者カ製造スル者ハ其質粗惡ニシテ緊子香味ニ乏シ是亦我分ク酒精ノ密餚ヲ遏止スルノ原因ヲ為ス者ナリ

千八百五十五年石腦油混和酒精ノ製造ヲ允可スルヤ蘇格蘭ニ於テ酒精ヲ密餚スルノ弊風ハ更ニ一層ヲ減シテ殆ント將ニ皆無ニ至ラントスルニ及ヒ現ニ千八百五十五年ニ於テ密餚犯罪人ノ數ハ七十名ナリシニ千八百五十六年ニ至テハ四十八名ニ減シタリ而シテ千八百六十九年三月三十一日ニ終ル年度間ニハ其數十六名ナリシヲ以テ之ヲ前年ノ十一名ニ比スルハ其數ヲ増加シタリト雖モ未タ以テ驚歎スヘキノ域ニ至ラス
愛爾蘭ニ於テハ酒精ノ密餚尚ホ今ニ至リテ止マズ是ヨリ先キ

千八百五十年ニ在テハ酒精ノ税率僅ニ一瓦倫ニ付キ二司令八辺尼ナリシニ其間稅務巡查ニテ犯罪人ヲ逮捕スルコト三千四百五十一名ニ及ヒ千八百五十六年ニ至テハ其數減シテ二千二百八十七名トナリシカ其中千零十一名ハ普通巡查ニテ之ヲ逮捕シタリ而シテ斯ク普通巡查ニテ酒精ノ密餚者ヲ逮捕スル所以ノ者ハ蓋シ千八百五十四年ノ法令ヲ以テ愛爾蘭ノ軍務副總督ノ余ヲ奉タルキハ普通巡查ニテ收稅吏負ノ職任ヲ兼テ酒精ノ密餚及ヒ麥芽ノ密造ヲ抑壓シ得ヘキコトヲ許可シ千八百五十五年三月十四日乃至十月ノ間ニ於テ先ツ之ヲ「ド子」ガル及ヒ「クワシ」マニ州ニ試ミシテ大ニ其功ヲ奏スル所アルヲ以テ遂ニ其法ヲ愛爾蘭ノ全國ニ普及シタルニ依ル也
夫普通巡查ク收稅吏負ノ職任ヲ兼テ其行務ヲ怠ラス 普通巡查

本務ノ在ル所ニテ酒稅ノ密餚者ヲ犯罪人ヲ逮捕ス

ハ千人ノ多キニ至ルハ實ニ本寮ノ感謝ニ堪ハサル所ニシ
テ亦以テ既往ヲ懲シ將來ヲ戒タルニ足ルヘキヲ信ス故ニ若シ
之ニ加フルニ蘇格蘭ニ於テルケ如ク愛爾蘭地主及ヒ家主
ヲシテ相悞カシテ犯禁ノ豫防ニ注意スルヲアラシメハ假令ヒ
穀物ノ價直低下シテ尚ホ今日ヨリ甚シキニ至ルモ決シテ密餉
ノ再ヒ蔓延スル無キヲ保スヘキナリ將タ稅務巡查ニ代ルニ普
通巡查ヲ以テテヨリ本寮ノ經費ハ一年間四万三千八百三十二磅
ヲ節減シタリ

愛爾蘭ニ於テ酒精密餉ノ行ハルハヤ恒ニ年ノ豊凶穀物ノ熟否
ニ隨テ盛衰ヲ為スノ証憑ハ曾テ関申スル報告昼中ニ陳述スル
所ノ如シ今又茲ニ其概畧ヲ掲ケンニ千八百六十二年間密餉者
ヲ逮捕スルノ數ハ千九百七十二名ナリシカ當時即チ第
三月都伯林
愛爾蘭ノ市場ニ於テ燕麥ノ價直ハ一ブツセルニ付キ十四司令

二辺尼半ナリキ其翌年ニ於テハ燕麥ノ價直十三司令八辺尼ニ
シテ二千七百五十七名ノ密餉者アリ千八百六十四年ニ至テハ
十二司令八辺尼ノ價直ニシテ三千四百五十七名ノ多キヲ致シ
終ニ千八百六十五年間三千五百七十五名ノ犯罪人アルニ及ハ
リ而シテ千八百六十五年ニ於テ犯罪人ノ多キハ二十年以降未
タ曾テ有ラサル所ナリ蓋シ千八百六十六七年ニ至テハ燕麥ノ
價直頗ル騰貴シ犯罪人モ亦隨テ二千三百十九名乃至千六百零
九名ノ間ニ減シタリシカ千八百六十九年第三月三十一日ニ終
ル年度間ニ及テハ再ヒ千八百四十一名ニ増加シ之ヲ前年ニ比
較スレハ實ニ二百三十七名ヲ超過スト蓋シ千八百六十七年ニ
對照シ来ルキハ却テ四百七十八名ヲ減スル割合ニシテ昨年
千八百六十六年ノ如クハ僅ニ千八百六十五年ノ半數餘ニ過キカリ
シナア

大
幾
自

愛爾蘭ニ於テ酒精密餉行ハル、ヤ今日ニ至テ猶止マサル
 ハ實ニ慨歎ニ堪ハス、且廣漠ナル地方ニテト子トガルスリゴレゲ 雖氏其密餉ハ愛爾蘭内景モ貧窶ニシテ
 且廣漠ナル地方ニテト子トガルスリゴレゲ、クエイレ及ヒマヨ
 精ヲ購入スルニ堪ヘサルノ致ス所ニシテ其密餉酒精ハ固ヨリ
 都合ニ於テ販賣スル者ニ非サレハ其弊タルヤ政府ノ歳入ヲ損
 シ廣直ノ蒸餾者ヲ害スルニ足ラサルヘシト思ハル
 本寮ニ於テハ酒精稅ノ増加スルニ由テ酒精ノ靡消及ヒ人民ノ
 風俗上ニ如何ナル影響ヲ生スル乎ヲ知ラント欲シ酒精稅改正
 前ノ靡消額ト其他海關稅及ヒ國產稅ヲ課スヘキ各物品ノ靡消
 額トヲ取テ之ヲ改正後ノ今日ニ比較スルニ酒精稅ノ改正ハ大
 ニ満足スヘキノ結果ヲ呈シタリト雖氏今一步ヲ進メテ酒精密
 餉ノ形狀ヲ前ノ改正前後ニ對照シ來ルニ非スンハ安ソ能ク其

實因極ノタリト云フコト得ンヤ
 抑モ何ノ事項ニ関スルニ論ナク苟モ人民ニシテ一國ノ成法ヲ
 遵守スル無キハ實ニ風俗頽廢スルノ兆証ナリ故ニ酒精稅ノ場
 合ニ於ケルモ其率ノ増加スルニ隨ヒ益々酒精ノ密餉ヲ増多ス
 ルノ跡アラシメハ是則テ慨歎スヘキノ甚シキ者ナリト至氏事
 實ニ於テハ否ラス幸ニ酒精ノ密餉ハ日ニ堙滅ニ就クモ未タ曾
 テ増多スルノ勢ニ至ラサル宣歡喜スヘキノ非スヤ依テ今第
 一葉ニ掲クル計表ノ附録トシテ全時期間ニ逮捕シタル酒
 精密餉者ノ負數ヲ示スコト左ノ如シ

酒精密餉者逮捕人員	
年 号	英 倫
	蘇 格 蘭
	愛 爾 蘭
千八百五十二年	

第十二月三十一日	五十九名	一二四名	一九〇四名
二終ル年度間			
千八百六十九年			
第三月三十一日	四一名	一六名	一八四名
終ル年度間			

今此計表ニ執テ考フルニ英蘇ノ二國ハ業既ニ満足ノ域ニ達シ
 愛爾蘭ハ之ヲ他日ニ期スルニ足ルハキ也

麥芽ノ事

左ノ類項ハ麦芽稅ヲ賦課スルノ方法ニシテバル氏ノ國產稅官
 史必携中ヨリ抄録スル所ニ係ル
 大麥ヲ以テ製シタル麦芽稅ハ一「ゲッセル」我三斗一四
 ニ付二司令七辺厄ト百分ノ五ヲ課シ人蘇愛ノ二國ニ播殖ス
 ル「バヤ」若クハ「ベクト」稱スル下ボノ大麥ヲ以テ製シタル者ニ
 ハ二司令ト百分ノ五ヲ課ス而シテ其稅額ハ實測ノ斗量ニ依
 テス唯其概計ニ從テ算定スルヲ恒トス蓋シ麥芽稅ヲ課スル
 緊要ナル方法ハ製造中ノ作用ヲ詳悉シ始メ穀物ヲ水ニ浸シ
 テ床上ニ撒布スルノ間ニ於テ其量ヲ査定シ其後竊ニ穀物ヲ
 添加セシメタルニ在リ故ニ麥芽製造者ハ國產稅法ニ遵ヒ穀物
 ヲ水ニ浸スル前ニ於テ豫メ其期日ヲ報告セサル可ラス收稅
 吏貸カ其報告ヲ得ルニ直ニ製造場ニ到テ其量ヲ測定シ其後

ノ費用ヲ経ル事ニ必^監時^時驗案シテ苟モ穀物ニ^加シテ脱
税ヲ計ルノ所業ヲ^シシノサルヲ以テ緊要ナリトス
麦芽ノ税ハ穀物ヲ水ニ浸シ若クハ床上ニ撒布スルノ時ニ於
テハ百^ブツセル毎ニ十八^ブツセル半ヲ減シ又普通ノ板床上
若クハ窖中ニ在ル時ニハ其半額ヲ減スルノ後其量ノ最モ多
キ時ニ於テ之ヲ課ス而シテ通常ニ在テハ其税額ヲ定ムル床
上ニ撒布スルノ時ヲ以テスト^虫氏又水ニ浸シ或ハ普通ノ板
床上ニ在ルノ時ニ於テスルノ場合ナキニ非ス
蓋シ穀物^ハ水桶内ニ在ルヤ随テ膨脹スレハ随テ^粒粒々
互ニ密着スルカ故ニ之ヲ床上ニ撒布スルノ時ニ比スレハ其
積量極ノテ寡少ナリトス故ニ其税額ヲ^算定スルハ概^テ床上
ニ撒布スルノ時ニ在リ然リト^虫氏始メ桶内ニ水ヲ注キ然ル
後穀物ヲ浸スク或ハ炎熱ノ候ニ当リ穀物ノ分子中ニ瓦斯

ヲ醸シ類ニ浮動スルノ時ニ在テハ桶内ニ^就就テ其量ヲ測リ
以テ税額ヲ^算定スルノ場合ナキニ非ス將タ普通ノ板床上ニ
在ルノ時其税額ヲ定ムルカ如キハ既ニ穀物ニ^嫩芽ヲ生スル
ク或ハ製造者ノ作用ニ定規ナキノ然カラシムル所ナルカ故
ニ收税吏^負ケル者ハ殊ニ^注念ヲ加ハサル可ラス又^麥麥芽製造
者ク通常ノ慣手ヲ以テ其製造ニ^従事スルハ法律ノ允可ス
ル^減減免法ハ帝ニ穀物ノ膨脹スルヲ償フニ足ルノミナラス其
寛中ニ在テ^算定スルノ場合ニ於テハ之ヲ水ニ浸シタル大^麥麥
ニ比スルニ其量ハ三分乃至一割ヲ超過スル者ナリ
麥芽製造者ハ賦税額^算定期日ノ終ヨリ六日間ニ其税額ヲ收
納セサル可ラスト^虫氏其^抵当証^各ヲ呈スルノ場合ニ於テハ
猶六週間ノ猶豫ヲ与ヘ^尋テ又^第十二月三十一日乃至^第四月
一^日ノ間ニ^收納スヘク税金ノ半額及ヒ^第四月一^日乃至^第五

月十五日、間ニ收納スヘキ税金ノ全額ニハ更ニ月ノ猶
豫ヲ与フ而シテ其納稅延期ノ間ハ一ヶ年三分二重五毛ニ当
ル利子ヲ加ヘテ之ヲ收納セシム
酒精ノ蒸餾ニ供センカ為メニ製造シタル麥芽ニハ稅ヲ納ム
ルヲ要セス其黒麥酒ノ醸造ニ供スル熬炙麥芽ノ如キハ尋常
ノ麥芽ヲ以テ之ヲ製造スルヲ得ヘシト虽モ必ズ^報呈シテ
免許稅磅^十ヲ收納シ為メニ設定スル所ノ諸規則ヲ遵守セサ
ル可ラス將々熬炙麥芽ヲ販賣スル者ニハ別ニ免許稅磅^十ヲ收
納セシム
抑々麥芽稅ノ起原ヲ尋スルニ英倫ニ於テハ千六百九十七年蘇
格蘭ニ於テハ千七百十三年、愛爾蘭ニ於テハ千七百八十五年ニ
始ル其後斷ヘス之ヲ賦課セシカ其今日ニ行ハル、所ノ法令ハ
千八百二十七年ニ會全セル議院ノ決議ニ依リ従前ノ諸法令ヲ

纂輯シテ合衆王國全州ニ施行セシメタル者ナリ然ルニ其後千
八百三十年、千八百四十七年、千八百六十年ニ至リ屢々此法令
ヲ改正スル所以^以者ハ麥芽製造者ノ為メニ煩勞ヲ与ヘ或ハ冗
費ヲ増シ若クハ其稅額ノ当初議院ニ於テ預期スル所ノ者ヨリ
重キニ至ルノ弊アレハナリ而シテ當時ノ改正ヲ經ルモ尙未ダ
製造者ノ疾苦ヲ療スルニ足ラサル者ノ如キハ尔後本寮ノ處分
ニ依テ悉ク之ヲ改竄シ今ヤ本寮ト製造者トノ間ニ於テハ毫モ
罅隙ヲ生スル無キニ至レリ
千八百五十四年ニ於テハ麥芽稅增加^一邊^二仁^三トツセル^四ニ^五科^六ニ^七司^八令^九セ
ト^十爲^{十一}ス^{十二}令^{十三}奉^{十四}リ^{十五}ト^{十六}魚^{十七}尾^{十八}爲^{十九}メ^{二十}ニ^{二十一}困^{二十二}難^{二十三}ヲ^{二十四}生^{二十五}シ^{二十六}テ^{二十七}本^{二十八}寮^{二十九}ノ^{三十}經^{三十一}費^{三十二}ヲ^{三十三}增^{三十四}多^{三十五}
スルニ至ラス蓋シ其稅率ヲ增加スルヤ既ニ此ノ如ク其甚シキ
ニ至リテ以テ麥芽ノ靡消上ニ如何ナル影響ヲ現シ来ル乎ハ實
驗ヲ經ルノ久シカラサニ能ク其原由ヲ究ムルニ至ラズト生^氏

姑ク計算ニ於テ其皮相ノ窺フキハ前年ヨリ五百一十
 百七十三ブツセルヲ減却スルヤ明矣憶フニ當時麥芽ノ靡消ヲ
 製材スルノ因縁タル蓋シ一ニシ足ラス仍令ハ前年ニ於テ麥芽
 製造スルノ過多ナル麥芽稅ノ増加ハ一時ノ計策ニ出テ承
 ク之ヲ施行ス可ラサル者タルカ故ニ麥芽製造者及ヒ麥酒釀造
 者ハ務メテ其製造量ヲ減シ又千八百五十五年ノ交ニ於テ
 ハ穀物ノ價直騰貴シ其品種モ亦極テ粗惡ナルカ如キ是ナリ
 此ニ依テ之ヲ推スバハ麥芽靡消ノ著シク減却セシハ未タ全ク
 其稅ノ増加スルカ為メナリトハ斷言ス可ラサル也

千八百五十四年 茅四月五日ニ終ル年度間	斗量	「ブツセル」	收稅額	磅
千八百五十五年 茅三月ニ終ル年度間	四一、〇二〇、三八一		五、五五二、四六七	
	三五、二〇八、六〇八		六、八四八、四七六	

減差 五、八二、七七三
 増額 一、二九六、〇〇九

千八百五十四年該院ノ決議ニ依テ麥芽稅ヲ増加スルヤ之ヲ奉
 行スルニ於テニ様ノ困難アリ其一ハ倍稅ノ公布アルニ際シテ
 製造者ノ手ニ在ル麥芽ニ課稅額ヲ追課スルニ其二ハ倍稅ノ期
 日既ニ尽ルニ當リ曩ニ賦課シタル増稅額ヲ還償スルノ方法ヲ
 定ムルト即チ是ナリ蓋シ倍稅額ヲ追課スルノ場合ニ於テハ多
 量ノ麥芽ヲ貯藏櫃若クハ貨房ニ堆積スルノ故ヲ以テ良シヤ歷
 權ノ為メニ相密着シテ其積ヲ減スルモ收稅吏負ハ務メテ之カ
 計算ヲ寛裕スルニ因リ幸ニシテ愁訴ノ聲ヲ聞クニ至ラスト金
 非其之ヲ還償スルニ及テハ製造者ハ麥芽ヲ床上ニ撒布スルニ
 マス然リト金ニ増稅追課ノ時ト之ヲ還償スルノ時 具方法ヲ

異ニスルノ不可ナルヲ以テ其要請ヲ願ニス直ニ之ヲ施行シタ
リ
抑々篩ニ上セタル麥芽ト上セサル者トハ自ラ精粗ノ別アルヲ
以テ未タ篩ニ上セサル者ニハ法律ニ依テ其税ノ七分五厘ヲ減
免スト至モ收税吏負カ既ニ篩ニ上セタリト認ムル者ヲ麥芽製造
者ニテハ半ハ篩ニ上セタリト主張シ巨額ノ減税ヲ要請シテ止マ
ス然リト至モ本寮ニ於テハ半ハ篩ニ上セタル麥芽ニ減税ヲ允可
スルノ果シテ他ニ妨碍ヲ生スル無キヤ否ヲ慮リ苟モ之ヲ允可
スルトセハ未タ全ク篩ニ上セサル者ト同額ノ減免ヲ為ス可ラ
サルヤ言ヲ待タスシテ明ナリ故ニ其中間ニ一級ヲ設ケ其要請
ノ奸計ニ出テサルヲ保証スルハ半ハ篩ニ上セタル麥芽ニ
五分ノ税額ヲ除免スルニ決シタリ
千八百五十六年間麥芽上ノ倍税ヲ廢止スルニ因リ為メニ還償

シタル税額ハ十四万磅ナリキ
今マ麥芽税ノ收入ニ就キ詐偽ヲ構造シテ脱税ヲ計ル者甚ク夥
シ回想スルニ曩時麥芽製造者ク收税吏負ニ對シテ少シク罪状
スヘキノ事アレハ之ヲ口実トシテ直ニ本寮ニ愁訴スル所アリ
シニ今マ之ヲキハ蓋シ收税監督ノ豫メ其時ヲ期セスシテ屢々
全州内ヲ巡回視察スルニ依ルナリ
近年麥芽製造者ク脱税ヲ計ルノ好手段トシテ施ス所ノ方法ハ
麥芽ヲ床上ニ撒布スルニ際シ之ヲ壓搾シテ其分量ヲ減スルニ
在リ而シテ此方法タルヤ千八百四十五年ニ至テ盛ニ行ハレ本
寮ニ於テハ實ニ之ヲ抑制スルノ法ナキニ苦ミタリシカ幸ニシ
テ全州内ニ蔓延スルニ先~~テ~~之ヲ禁遏スルヲ得タルハ必竟會計
裁判官ノ明察剛毅ナルノ功ナリト云ハサル可ラス
詐偽ヲ構造シテ脱税ヲ計ルノ一点ニ関シテハ亦均シク千八百

五十六年ニ制定セル法令ニ着眼スルヲ緊要ナリトス何ソヤ蓋シ麦芽熬炙者カ成法ノ禁止スルニ拘ラス生麦ヲ麥芽ニ混和シテ其斗量ヲ減スルヲ以テ允麥芽熬炙者ノ所有スル麦芽ニシテ嫩芽ヲ萌生スル穀粒ノ半長ニ至ラサル以上ハ之ヲ麦芽ニ製スル者ト認メサルヘシト令スル即チ是ナリ抑々穀物ヲ麥芽ニ製スルト未タ製セサルトハ一タヒ熬炙スルノ後ニ於テ之ヲ識別スルヲ極メテ難ク其之ヲ賣却スルニ當リ價直ノ廉ナル故ヲ以テ必ス脱税ニ出クリト為スハ想像ニ過キサルノニ故ニ千八百五十五年ニ於テハ麦芽ト生麦トヲシテ容易ニ識別スルニ至ラシムルニハ充分ニ嫩芽ヲ萌生スヘキノ時間ヲ与フルニ如カストシ麦芽製造者カ穀物ヲ水ニ浸ス必ス百六十八時ヨリ減ス可ラストノ法令ヲ發シタリ然リト雖モ麦芽熬炙者ノ猾智ニ巧ナル自ラ供給ヲ仰ク所ノ麦芽製造者ニ教ルニ穀物ヲ水ニ浸スノ

前寛中ニ於テ之ヲ燒爛スルノ事ヲ以テセルカ故ニ百六十八時ヲ經ルノ後チハ嫩芽ヲ萌生スルヲ恰モ尋常ノ麦芽ニ異ナラサレモ既ニ發生ノカヲ失フヲ以テ後チ之ニ生麦ヲ混合スルモ此二者ノ間ヲ識別スル能ハサルニ至ル是ヲ以テ全年間法令ヲ改定シ麦酒醸造者ヲシテ従来ノ石磨ニ代ルニ麵棒ヲ以テシ麦芽ヲ碎粉スルニ供セシメタリ蓋シ麵棒ハ麦芽ヲ碎粉スルニ足ルヘク未タ生麥ヲ碎粉スルニ足ラカレハ也

千八百五十六年及ヒ千八百六十年大麥ノ成熟良ラス隨テ其實ノ粗惡ナルヤ之ヲ將テ麦芽ヲ製スルモ麦酒ノ醸造ニ適スヘカラス依ニ本寮ニ於テハ斯ノ時期ニ際シテ麦芽稅ヲ免除シ得ルノ例ニ照シ若シ收稅吏負ク醸造ニ使用シテ政府ノ歲入ヲ損害スル無キヲ確認スルモ其稅ヲ免除スヘキヲ允可シタリ蓋シ現時ノ成法ニ拠レハ斯ノ如ク麦芽ニハ醸造用ニ充ルナカラン

為メ亜麻仁粉若クハ亜麻仁粉製ノ乾糕ヲ混和セシムルヲ例ト
ス
千八百五十九年ニ於テハ燕麦ヲ以テ製造セル麦芽ノ税ヲシテ
公平ノ域ニ至ラシメシカ為メ本寮ニテ之カ試験ヲ施シ燕麦ヲ
盛^桶リ之ニ水ヲ注タルニ其膨脹シテ斗量ヲ増加スルヤ大麦ノ比
ニ非ス故ニ從來ノ成法ニ依リ麦芽ノ桶内及ヒ床上ニ在ルニ際
シテ之カ斗量ヲ算定スルニ其膨脹ノ償トシテ定メタル減税ノ
分割ヲ改正スルニ非サルヨリハ其税ノ^偏重ニ失スルノ患ナキ
能ハサルヲ查出シ即チ現時施行スル所ノ一割八分五厘ノ減
税ハ之ヲ大麦ニ施スヘキモ決シテ燕麦ニ施ス可ラサルヲ知レ
リ依テ本寮ニ於テハ燕麦ヲ以テ製セル麦芽ノ減税額ヲ三割ト
定メ之ヲ閣下ニ建議シテ直ニ其裁可ヲ得タリ將タ方今ニ至リ
燕麦ヲ以テ麦芽ヲ製スルハ著^ルシク其量ヲ^減却セリ

千八百五十九年大藏卿哥利士斯頓氏ハ從來麦芽製造者ニ先可
セル納税猶豫期日ヲ短縮シテ大約八十万磅ノ歲入額ヲ增加
セリ其當時ノ成法ヲ改正セサルヘカラサル所以ノ理由ハ全年
第七月十八日會計豫算表ニ就テ大藏卿ノ演說スル所ヲ以テ瞭
然ナリトス依テ茲ニ其要領ヲ掲クルト左ノ如シ
今ヤ政府ハ麦芽製造者ニ依スニ六月ノ納税延期日ヲ以テ
スト^ト虫^ト製造者ニ在テハ唯麦芽ヲ製造發賣シテ其代價ヲ收
ムルアルノニ其納税期日ニ至テ代價ヲ收ノサルカ如キハ固
ヨリ製造者ノ罪タリ將タ誰ヲケ怨ミン況ニヤ斯ノ如キノ特
例ハ僅ニ苦草税ヲ除ノ外ハ絶^テ之ナキニ於テヤ故ニ令他
ノ辞ヲ設ケテ之ヲ言ヘハ政府^ハ麦芽製造者ニ資本ヲ貸与セルニ
外ナラス之ニ及シテ酒精蒸餾者ヲ見ヨ收税吏負ク酒精ノ量
ヲ查定スルノ後直ニ納税セサル可カラサルニ非ラスヤ其間納

大藏省

税ノ期日ヲ寛仮スルアルモ僅ニ五六周日ニ過キス其製紙者ニ於ケルモ亦此ノ如クナルノミ夫政府カ酒精蒸餾者ト對シテ納税ノ延期ヲ許サルヤ既ニ斯ノ如シ將夕何ノ憚ル所アリテカ獨リ麦芽製造者ニ許スニ十八週間ノ特例ヲ以テシ他ノ調査期日六週間ヲ供セテ殆ト六月ニ至ルノ延期ヲ以テスルカ抑モ政府ニシテ高價ニ資本ヲ貸与スルノ法アルハ理ノ当然ニ非ナル也況ンヤ彼ノ特例ノ如キハ彼ニ許シテ此ニ許サハル者タルヲ故ニ政府ニ於テハ今日ヲ以テ之ヲ改正スヘキノ時機トシ敢テ意見ヲ聞陳ス然リト虽モ其所謂改正ナル者ハ遽ニ納税延期ヲ全廢シテ毫モ寛仮セスト云フニ非ス何トナレハ遽ニ之ヲ全廢スルノ弊タルヤ却テ商業ヲ攪乱シ其資本ニ乏シキ者ヲ危スルニ至レハナリ故ニ今日ニ在テハ唯其中庸ヲ撰ミ從來准許スル所ノ六週間ヲ短縮シテ十二

週間ヲ存ヤシノ可ラ蓋シ將來ニ於ケルニ猶其期ヲ短縮スルノ方策ナキニ非サレモ遽ニ之ヲ施スハ却テ人民ノ愁訴ヲ招クノ基タルヲ以テ姑ク他日ノ問題ニ付シ今ヤ議院ノ諸卿ニ冀望スル所ハ既ニ從來ノ納税期日六週間ヲ短縮ストセハ政府ニ於テモ亦甚タ些々タル貴額ヲ惜マス麦芽製造者ノ為メニ麥芽税ノ四分ヲ減免スルヲアランヲ然リト虽モ此ノ如キハ唯一時ノ舉ニシテ之ヲ將來ニ施サント欲スルニ非ス而シテ更ニ其納税延期ヲ短縮スルカ如キモ亦タ他日議院ノ決議ヲ經テ施行ヤサル可ラサルノ要點タリ余カ今此言ヲ為ス所以タルヤ好テ麥芽税ノ收納法ヲ改正シテ其期限ヲ分テ或ハ麦芽ノ斗量ヲ算計スルノ法ヲ改メ或ハ又製造者ニ其税ヲ收納セシムルノ次序ヲ變シテ委負ヲ煩カント欲スルニ非ス唯從來ノ納税延期六週日ヲ短縮スレハ本

會計年度ノ終ル前ニ七十八万磅ヲ收ムルノ望アレハナリ若
夫然ラスシテ尚旧慣ニ仍ラハ安ソ之ヲ得ルニ至ランヤ要ス
ルニ今日ノ目的ハ從來政府カ麥芽製造者ニ貸与スル所ノ資
金二百五十万磅ヨリ僅ニ八十万磅ニ足ラサル金額ヲ收メ
ト欲スルノミ云々

其翌年^{即チ一十年}ハニ至テハ更ニ麥芽稅收納期日ヲ減縮シテ六
週間ト為シタレハ為メニ本年度間ニ收ムル所ノ増額ハ百十万
磅ノ多キニ及ヘリ蓋シ此改革ニ依テハ麥酒釀造者カ夏時ヲ過
キテ其釀造ヲ始ムルノ日迄ハ麥芽製造者ニテ貯蓄シ敢テ發賣
スルヲ得サル麥芽ニモ早既ニ第一^{第一}季^{四月}ヨリ稅期ニシテ^{即チ}麥
ニ於テ其稅ヲ納ノサル可ラサルヲ以テ其麥芽製造者ヲ困却セ
シムルヤ極メテ大ナリ故ニ千八百六十三年^{三月}二月二十七日ノ
法令ヲ以テ再ヒ改正シ第一^{第一}月一日乃至^{第一}四月一日間ニ收納ス

ヘキ麥芽稅ノ半額及ヒ^{第一}四月一日乃至^{第一}五月十六日間ニ收納
スヘキ者ノ金額ニハ六週間ノ外尚三ヶ月ノ猶豫ヲ与ヘ各々三
分二厘五毛ノ利子ヲ加ヘテ之ヲ收納セシメタリ蓋シ此ノ改正
法ニ從ハハ良シヤ大藏省ニテ一週會計年間ニ收ムル所ノ稅額
ハ毫モ從前ニ異ナル無キモ各收稅期ニ於テ收稅官吏カ收ムル
所ニ至テハ必ス多少ノ増減ヲ生スヘシト思ヒシニ之ヲ實際ニ
徴スレハ却テ一年間ノ收額ヲ均分スルニ至レリ而シテ此改正
ノ初年麥芽製造者ヲシテ悉ク納稅ノ延期ヲ請ハシノハ其總額
六十六万千磅タルヘキニ其^{第一}年ハ二十万五千磅ニ至リ又千八百
六十八九年ノ交ニ於テハ賦稅ノ總額三百六十九万千八百四磅
ノ中ニ就テ僅ニ二十二万四千五百二十三磅ニ過キサリキ
原^{第一}未^{第一}外國製麥芽ノ輸入ハ法律ノ嚴禁スル所ナリシカ千八百六
十年^{第一}一^{第一}ク^{第一}タル^{第一}ト^{第一}ル^{第一}我^{第一}一^{第一}石^{第一}五^{第一}斗^{第一}五^{第一}升^{第一}二^{第一}合^{第一}ニ付二十五司令ノ海關

税ヲ課シテ之カ輸^入ヲ允可シタリ蓋シ此課税ノ旨趣タリマ当
時哥刺士斯頓氏ノ演説スルカ如ク内地ノ産業ヲ保護スル為メ
ニ非ス唯々内国ノ製造者カ麦芽税ノ外猶税法ノ檢束ニ依リ為
メニ貴ス所ム者ヲ償ハント欲シテナリ依テ其貴額ノ主要ナル
者ヲ掲クルル左ノ如シ

麦芽税

廿一司令八辺尼半

穀物税

一司令

六ヶ月間税金上ノ利子

六辺尼

税法ノ檢束ニ依テ生スル雜費及ニ免許税 一司令九辺尼半

計

廿五司令

夫内国ノ製造者カ費ス所ハ斯ノ如シト虽其税法ノ檢束ノ為
メニ生スル貴額ヲ美スルニ至テハ極メテ寛大ニ過クルカ故ニ
直ニ之ヲ以テ其當ヲ得タル者ト為ス可ラサル也

此年^{六十八年}始メテ外国輸出ノ麦芽ニ内国税ノ還償ヲ許セリ是
ヨリ先キ外國輸出ノ麦芽ハ特別ノ規則ニ從フテ製造セルカ故
ニ其内国廢消ノ為メニ製造シタル者ノ如キハ之ヲ他邦ノ市場
ニ輸スル^{機會}得ヤリシ也而シテ當時輒ク其還償ヲ允可スルヲ
得サル所以ノ者ハ麦芽製造者ク示ス所ノ麦芽ニ於テ良シヤ
課税セサルノ穀物ヲ混和スルコトアルモ收税官吏ノ單純ナル檢
査ニテハ之ヲ識別スル能ハサレハナリ然リト虽^凡令ヤ麦芽ノ
斗量ヲ検査シテ還償ヲ許スノ法ニ從ハハ未タ以テ完全ノ域ニ
至ラサルモ或ハ製造者ノ為メニ瞞着セラレハ、甚タ少ナ
キヲ保スルニ足ルヘシ何トナレハ麦芽ヲ輸出スルニ際シテハ
必ス貸并ヲ抽取シテ之ヲ分析シ然ル後其還償ヲ允可スレハト
リ將タ千八百六十一年ノ交ニ於テ麦芽税收入額ノ減却スル
所以ノ者ハ千八百六十年及七六十一年納税延期ノ時限ヲ短縮

シテ大ニ今年間ノ收額ヲ増加シレハ也
千八百六十五年「マルゲート」ニ於テ社会ヲ創立シ凝結麦酒ノ專
賣免許ヲ得テ之ヲ印度及ヒ暖帶ノ諸國ニ輸出セント企ル者ア
リ抑々此麥酒ハ麥芽及ヒ苦草ノ萃ヲ拔タル者ニシテ之ヲ錫罐
中ニ填塞シテ密封シ外國ニ輸送スルノ後水ヲ注テ鞠ヲ加フル
所ハ容易ニ尋常ノ麦酒ニ変スル者ナリ而シテ社負ノ臆策スル
輸中減損スルノ患ナク随テ其價直ヲ廉下スルヲ以テ當ニ該地
在營ノ兵隊ノ購入スルノミナラス尚土人ト虫ト好ンテ之ヲ靡
消スルニ至ラント依テ該社ヨリ輸出ノ還償ヲ允可ラレン
ヲ請願シタリシカ故ニ閣下ハ直ニ本寮ニ命スルニ製造ノ原品
ニ賦課シクル税額ニ均シキ還償ヲ允可スヘキヲ以テセリ是ニ
於テ政府ノ歳入ヲ護持スルニ足ルヘキ緊要ノ規則ヲ制定シ千

八百六十六年ノ初ヨリ吏負ヲ派シテ凝結麦酒ノ製造ヲ監視セ
シメタリシカ幾モナク其業衰運ニ就キ終ニ今年第五月ヲ以テ
之ヲ廢止セリ是全ク詎呂ヲ需求スルノ多クテハルニ依ルト云
フ然リト虫ト輓近ニ至テハ再ヒ之カ製造ニ從事ス而シテ凝結
麥酒輸出ノ還償ハ千八百六十六年ニ合同セル該院ノ裁可ヲ經
テ之ヲ法令中ニ纂輯シタリ
千八百六十六年ノ秋ニ當リ大麦ノ價直ノ騰貴スルカ為メニ麦
芽ノ價直ニ影響シ砂糖ヲ以テ麦芽ニ代ルノ却テ其費用ヲ減ス
ルニ至リタレハ麦酒醸造者ハ益々之ヲ使用シ其前年ニ於テ砂
糖ヲ代用スルカ為メニ麦芽ノ靡消ヲ減スルノ額ハ僅ニ二十九
万零五百九十八「ブツセル」ナリシニ此年ニ至テハ砂糖ヲ使用ス
ルノ二千六百五十三万二千四百零三封度ノ多キニ及ヒシカ故
ニ麦芽ノ靡消額ハ二万七千五百五十八「ブツセル」ナリ

減却シタリ然リト云々此亦人情勢ニ拘ラス麥芽ノ稅ヲ課シタル斗量ハ頗ル増加シテ實ニ七十五万二千三百四十一「ブッセ」ニ及ヘリ

茅三月三十一日以後ノ年度間

課稅ノ斗量「ブッセ」

千八百六十八年

四八、四八九、四三七

千八百六十九年

四九、五九〇、五〇九

増額

一、一〇一、〇七二

千八百六十八年ノ凶歉ニ遭テ麥芽ヲ製造スヘキ上ホ大麥ノ供給乏キニ至ルヤ其價直亦隨テ騰貴シタリト云々此麥芽ニ代ルニ砂糖ヲ以テセリ蓋シ當時使用シタル砂糖ノ量ハ左ニ示ス所ノ如クニシテ即チ前ノ表中ニ掲グル麥芽ノ外ニ使用セシ者ナリ

千八百六十八年

三九、八八二、〇五二封度

千八百六十九年

四一、三六七、七五封度

今ヤ砂糖二百十封度ハ麥芽一「ク」アルトルニ比均スハシト定ムルカ故ニ前ノ表中ニ掲グル麥芽ノ量ニ砂糖ヲ加フレハ即チ左ノ如クナルヘシ

千八百六十八年

一、五一九、三一六「ク」アルトル

千八百六十九年

一、五七五、八九六「ク」アルトル

砂糖稅ハ其若干ハ海關ニ收メ其若干ハ國產稅局ニテ收ムル者ニシテ千八百六十七八年ノ收入額ハ六千八百二十万四千四百三十五磅ニ至リ千八百六十八九年ニハ六千九百二十一万二千三百七十六磅ニ至レリ

秤量ニ從テ麥芽稅ヲ賦定スル事

従来麥芽稅ニ關シテ屢々異論ヲ生スルノ点ハ其斗量ニ從テ稅ヲ課スルノ秤量ノ輕キ大麥ノ為ノニハ恰モ以テ麥芽ヲ製

大蔵省

造スルヲ禁止スルニ異ナラサルニ在リ故ニ千八百六十五年ニ於テハ此弊害ヲ除カンカ爲メニ秤量ニ從テ麥芽稅ヲ賦定スヘキニ決シ普通ノ大麥一「ブツセル」五十三封度ニ比均スルノ例ヲ推シテ凡秤量ノ輕キ大麥ノ稅額ヲ定ムルニハ先ツ一般ノ規則ニ從テ其斗量ヲ測リ次ニ價并一「ブツセル」ヲ抽テ其秤量ヲ査定シ隨テ得ル所ノ封度ヲ以テ大麥ノ斗量ニ加ヘ之ヲ五十三ニ除算シテ其稅ヲ賦定スヘシトノ法令ヲ發シタリ

然リト雖モ次ノ麥芽製造期ニ至リ大麥一「ブツセル」ノ秤量ハ其内産外産クルヲ問ハス五十三封度ノ本位ニ超過スルヲ以テ該法ノ保護ヲ承ケテ麥芽ヲ製造スル者ハ全國ヲ舉リ僅ニ四百戸ニ過キス而シテ其過半槩ニ東陞諸州凶歉ノ地ニシテ秤量ノ輕キ大麥ヲ産スル所ニ限レリ而シテ今此四百戸ニ於テ製造スル所ノ麥芽ヲ普通ノ麥芽ニ比例シテ全國內ニ及ホスモ其量ハ

僅ニ百分ノ四ニ當リ本年ニ至テ亦敢テ當時ニ異ナル無キヲ見ル依テ茲ニ千八百六十五年以降水ニ浸セル大麥ノ秤量ニ從テ課稅シタル計數ヲ表出スル左ノ如シ

第三十一年間 終ル年度間	均ノ重量	斗量ニ從テ課稅シタル分「ブツセル」	秤量ニ從テ課稅シタル分「ブツセル」	課稅ノ減差 磅
千八百六十六年	五十封度十分八	二、二二九、一九七	二、一三九、八六一	一二、一一九
千八百六十七年	五十封度十分一	三、六七〇、七五二	三、四七一、六三四	二七、〇の六
千八百六十八年	五十封度十分ノ五	三、七五八、〇七九	三、五八二、七九四	二三、七七三
千八百六十九年	五十封度十分ノ九	二、一一三、八〇〇	一、九九〇、五〇六	一六、七二一

*千八百六十五年茅七月ノ法令布告後ニ於ケル斗量ヲ示ス

第三十一年間 終ル年度間	均ノ重量	斗量ニ從テ課稅シタル分「ブツセル」	秤量ニ從テ課稅シタル分「ブツセル」	課稅ノ減差 磅
千八百六十六年	五十封度十分八	二、二二九、一九七	二、一三九、八六一	一二、一一九
千八百六十七年	五十封度十分一	三、六七〇、七五二	三、四七一、六三四	二七、〇の六
千八百六十八年	五十封度十分ノ五	三、七五八、〇七九	三、五八二、七九四	二三、七七三
千八百六十九年	五十封度十分ノ九	二、一一三、八〇〇	一、九九〇、五〇六	一六、七二一

家畜ノ飼料ニ供スル麥芽ノ事

千八百六十三年秋大藏卿ハ本意ニ於テ麥芽ニ亞麻仁ヲ混和シテ麦酒ノ醸造ニ使用スルヲ得サレシメ而シテ其稅ヲ免除シテ專ニ家畜ノ飼料ニ供セシムルハ猶石腦油混合酒精ノ場合ニ於ケルカ如ク敢テ政府ノ歲入ヲ損害スルニ至ラザル乎ノ試驗ヲ施スヘキ以テセルカ故ニ本寮精練室ニ於テハ直ニ之ヲ試驗シ麥芽ト亞麻仁ヲ混和碎粉スルキハ家畜ノ飼料ニ供スルニ足ル可ク又敢テ政府ノ歲入ヲ損害スルニ至ラザルヘキヲ証明シテ其結果ヲ全卿ニ上申シ尋テ斯ノ如ク混和シタル麥芽ハ無稅タルヘキノ令ヲ發シタリ然ルニ此發令後ノ麥芽製造者一期ニ於テハ飼料麥芽製造者二十八名ニシテ一万七百五十クアルトルヲ製造セシカ令ヤ此種ノ麥芽ヲ以テ家畜ヲ飼養スル者漸ク其數ヲ減シ隨テ之ヲ製造スル者斯ナキニ至レリ

第三月三十一日終年度間	麥芽製造所ノ數	麥芽製造ノ量 <small>アルセル</small>
千八百六十八年	一	七一三
千八百六十九年	一	三一六
減差		三九七

千八百六十九年第三月三十一日ニ終ル年度間麥芽ノ製法ヲ謬リ或ハ充分ニ嫩芽ヲ發生セラルニ因リ之ヲ家畜飼料ニ供シ為ニ其稅ヲ免除シタルノ量ハ六千八百四十三「ブツセル」ナリキ

醸造用砂糖ノ事

千八百四十七年始メテ砂糖ヲ使用シテ麥酒ヲ醸造シ得ヘキノ法令ヲ發シタリ蓋シテ左ニ砂糖ノ輸入稅ハ麥芽ノ稅ト其

率ヲ同セルカ故ニニ感産税ヲ加ヘテ之ヲ平均セシムルヲ要
セザリシカニ八百五十一年砂糖ノ輸入税ヲ减免スルニ及テハ
麥酒ノ醸造ニ供スル者ニハ一「ホントルトウエイ」ト
ルニ當ニ付一司令四辺尼ノ國産税ヲ増課シ尋テ六司令六辺尼ニ
増加シタリ今ヤ其税ノ増加スルヲ既ニ此極ニ至リタレハ亦隨
テ預シノ脱税ヲ扞制スルノ方策ナカル可ラス依テ千八百五十
五年ニ於テ允麥酒ノ醸造ニ砂糖ヲ使用スル者ハ之ヲ收税吏負
ニ報告シ一磅ノ免許税ヲ納メサル可キルヲ令ニ兼テ本寮
ニ付与スルニ政府ノ歳入ヲ護持スルニ必要ナル規則ヲ設ケテ
麥酒醸造者ニ導~~テ~~セシムヘキノ權ヲ以テセリ
示來麥酒ノ讓造ニ供スル砂糖ノ税ハ海關稅ノ變更スルニ從テ
其率ヲ増減シ令ヤ一「ホンドルトウエイ」トニ付三司令六辺尼ヲ
課ス是砂糖二百七封度ハ麥芽一「クラルトル」トニ付三司令六辺尼

半ノ國産税ヲ課スニ比均シ且醸造ニ使用スル砂糖ハ海關稅ハ
司令ヲ課スル粗惡ノ者ナルヘシト看做シテ定ムル所ノ額ク
夫麥酒醸造者ク千八百四十七年ノ法令ヲ便利ナリトシ大ニ砂
糖ヲ使用スルニ至リシハ近年ノ事ニ屬スルノミ故ニ本寮ニ於
テ政府ノ歳入ヲ救護スル為メニ制定シタル規則ハ當時ニ在テ
ハ之ヲ必要ナリトセサルモ今ヤ其使用ノ益々盛ナルニ及テハ
曩日ノ規則ヲ以テ其目的ヲ達スルニ足ラス實ニ今日ニ於テハ
讓造者ホノ誓詞ヲ信依シテ其税ヲ課スルニ過キサルナリ然ル
ニ其所謂誓詞ナル者ハ際子詐偽ニ出テ毫モ信依スルニ足ラサ
ルハ他日本寮ニ於テ其規則ヲ改正シテ更ニ一層ノ精密ヲ加ハ
之ヲ施行スルハ蓋シ醸造者カ自ラ招ク所ニシテ之ヲ以テ苛察
ノ説法ナリトシ敢テ愁訴スルノ理由ナキヲ信ス
此事ノ密附ノ關係
少糖精製者ノ為メニ緊要ナル問題ハ

大 裁 旨

方今禁止スル所ノ
タ允可シテ可ナルヤ否ノ一事是ナリ前既ニ同陳スルカ如ク麥
酒ノ醸造ニ使用スル砂糖ニ関シテハ頗ル精密ノ審査ヲ遂ケ砂
糖ヲ麥芽ニ代用スルヲ允可シ漸ク本寮ノ目的ヲ達スルヲ得
タリト虫氏今日ノ成法ヲ改正スルノ考案ヲ閣下ニ上陳スルノ
前猶審案スハキノ難事アリ何ソヤ彼ノ舍利別ボハ實ニ醸造者
ノ必須トスル所ナリ乎否ヲ審スル是ナリ苟モ此品種ヲシテ必
ス麥酒ノ醸造ニ供スハキノ者ヲラシメ而シテ其稅ヲ收ムル猶
麥芽ニ均シカラシメハ醸造者ク之ヲ使用スルヲ得サルヤ必
セリ而シテ千八百六十四年砂糖稅ノ還償ニ関シテ白耳美倫蘭
西荷蘭ニ三國ト締約セル條款ニハ舍利別ボニ收稅額ヲ還償
スルノ明文ヲ掲ケサレハ全ク海關稅ヲ約ノサル者ト為シ之ニ
麥芽稅課スヘシト定メシニ舍利別ノ二百四十五封度ヲ麥芽

一「クタルトル」ニ比均スルヤハ一「ホントルトウ」ニ付九司
令十一邊尼ノ稅ヲ課セザル可ラス是恐クハ今日下才砂糖ヲ使用
シテ麥酒ヲ醸造スルニ比スレハ其利極メテ甚カルベシ之ヲ
倫敦ノ麥酒讓造者ニ聞ク今ヤ舍利別ノ價直ハ一「ホントルトウ」
エイトニ付十五司令乃至十九司令ノ間ニ在リ故ニ若シ之ニ九
司令十一邊尼ノ稅ヲ課セハ是則チ使用ヲ禁止スルニ異ナラ
ルナリト

麥酒輸出ノ事

千八百三十年麥酒稅ヲ廢止シテヨリ麥酒ヲ輸出スルニ於テ收
稅額ヲ還償スルハ其醸造ニ使用シタル麥芽及ヒ砂糖ニ課スル
所ノ稅ヲ還償スルニ外ナラス而シテ其稅ヲ還償スルニ於テハ
現ニ麥酒ヲ醸造スルニ裁許ノ麥芽ヲ使用セシカラ詳悉スルノ
難キヲ覺ヘシカニ

ハ更ニ一層ノ難ヲルハ
千八百四十七年前ニ在テハ麥芽稅ノ還償ヲ二種ニ分チ麥酒
一、パール^ルニ我^ルニク^ル六^ニ一^ニ升^ニ合^ニニ麥芽^ニブツセル^ルヲ使用スレハ五
司令ヲ還償シ三、ブツセル^ルヲ使用スレハ七司令六辺尼^ヲ還償シ
シテ之ヲ還償スルノ方法ハ一、釀造者ノ誓詞ヲ信依シテ其要求
スル所ニ任セシカ其誓詞ハ果シテ詐偽ニ出テサルカ否ヤヲ
監別スルノ法ナカル可ラストハ蓋シ當時必要ノ問題タリキ故
ニ本寮ニ於テハ「ドアソン」及ヒ「フイリッブス」ノ二氏ヲシテ麥酒
ノ貨弁ニ就テ如何ナル重量ノ新酒ヲ以テ釀造シタル者カヲ監
別スルノ方法ヲ試験セシメ遂ニ新酒釀造前ノ比量千零五十四
度及ヒ千零八十一度ニ位スルハ則チ麥酒「パール」毎ニ各々麥
芽^ニブツセル^ル若クハ三、ブツセル^ルヲ使用シタルノ徵証タル^トヲ
究ノ以テ之ヲ法令ニ掲クルニ至リシハ實ニ彼ノ二氏ノ功ナリ

ト云ハカル可ラス而シテ此法タルヤ不正ノ要求ヲ扞制スルニ足
ルヘキ者タレハ世人^ヲ之ヲ敵視シテ百方駁議抗弁スルヲ免レ
ス然リト虽^ニ幸^ニ其後博セ^テグラハム^トホフマシ^レットウドウト
氏ノ精密ナル試験ヲ経テ之ヲ憑証スルニ至^テハ愈々其法ノ確
實ニシテ謬誤ナキヲ確認スルヲ得タリ
此時以未麥酒ノ輸出ハ日ヲ逐フテ增多^ス釀造者ハ従来二種ノ
麥酒ニ允可セル還償稅ヲ以テ尚足ラストシ之ヲ本寮ニ要求セ
リ依テ其率ヲ七種ニ分チ麥酒一、パール^ルニ付麥芽^一ブツセル^ル
半ヨリ次ヲ逐テ半^{ブツセル}ヲ策シ終ニ四^{ブツセル}半ニ至^{ラシ}
千八百五十一年^ヲ以テ該院ノ裁可ヲ經タリ
千八百六十一年^ニ至^テハ此七種ノ還償稅率ヲ増加シテ十八種ト
為シタリシカ令ヤ政府ノ歲入ヲ救護スルノ法全ク備ハリ麥酒
ノ釀造愈々盛ニシ^{大ニ}之ク輸出ヲ増加セリ

「チカリ」乃 咖啡ノ事

千八百六十四年前ニ在テ本寮ノ官吏ハ人民カ私ニ「チカリ」ヲ以テ咖啡ニ代用混和スルヲ禁停スルヲ務メタリ
 千八百六十年ニ於テハ「合衆」王国内ノ産品ニシテ「チカリ」及ヒ咖啡ノ使用ニ代用スヘキ植物ニ「ホンドルトウエイト」ニ付三司令ノ税ヲ課シ千八百六十一年第四月三十一日以降ハ其率ヲ増加シテ五司令六辺尼ト為シ終ニ千八百六十四年第四月一日ニ於テ一封度ニ付四司令三辺尼ノ税ヲ課スル迄ハ漸次ニ其率ヲ増加シタリ而シテ今ヤ本寮ニ於テハ稅務ノ為ニ咖啡ニ「チカリ」ヲ混和スルヲ豫防スルノ緊要ナラサルニ至レリ

第三月三十一日ヲ以テ終ル年度	課税ノ量	「ホンドルトウエイト」
千八百六十八年	一七、三五五	
千八百六十九年	一一、八四三	

減差

五、五一二

此統計表ニ就テ觀察スレハ内國産ニ係ル「チカリ」ノ廢消ハ著ルシキ減差ヲ生スルカ如シト雖モ其実ハ千八百六十八年間ノ收獲ハ極メテ增多ナリトス何トナレハ前會計年度ノ終リニ於テ倉庫内ニ留存スル者ハ僅ニ六千零五十六「ホンドルトウエイト」ナリシニ其翌年ニ終ニハ尚一万四千二百十二「ホンドルトウエイト」ノ多キヲ留存スレハナリ

英製砂糖ノ事

英製砂糖ハ久シク國産稅則中其名称ノミヲ留メ曾テ之ヲ製造スル者ナカリシカチ千八百六十四年ノ交ニ至リ始メテ倫敦府内澱粉砂糖ヲ製造スルニ区ノ製造場ヲ創立セリ此砂糖ハ西穀米及ヒ馬薯ノ澱粉ヲ採テ之ヲ製スルカ故ニ甘蔗ヨリ製スル者ト其類ヲ異ニシ且 甘味々速ク海外植民地ヨリ輸入スル下ボ

ノ砂糖ニタモ及ハ
差アリト虫氏概シテ八司令乃至九司令七辺尼ノ間ニ在リ
千八百六十四五年ノ交ニ於テ創立セル一區ノ製造場ハ
其翌年ニ至テ全ク其業ヲ廢止タリシカ其間ニ製造スル所ノ量
ハ甚タ尠ナリキ將タ澱粉砂糖ハ特リ麥酒ノ醸造ニ使用スル
ノミ
輓近麥酒醸造者カ一種別様ノ砂糖ヲ使用スルアリ此砂糖ハ既
ニ海関稅ヲ課シタル外國及ニ殖民地ヨリ輸入スル砂糖ヲ以テ
製シ之ニ「サツカル」ムノ名称ヲ附シテ發賣ス則チ稀硫酸ヲ混
和シ甘蔗砂糖ヲシテ葡萄砂糖ニ變化セシメタル者ナリ
千八百六十八年秋「レウエン」ハム州ニ於テ甜菜根砂糖製造場ヲ
創立シクル人ニシテ倫敦砂糖精製者ノ一人ナル「ダンカ」氏ハ
原來甜菜根砂糖ノ稅ハ其製造ヲ終ルノ後之カ秤量ニ從テ賦課

スルニ拘ラス終始一區ノ場所ニ於テ之ヲ製造セサル可テスト
ノ成法アルヲ不便ナリトシ之ヲ廢止セラレシヲ本寮ニ請願
セリ蓋シ全氏ノ意ハ「レウエン」ハムノ製造場ニ於テ甜菜根ヨリ
舍利別ヲ製シテ之ヲ倫敦ノ砂糖精製場ニ送り輸入ノ甘蔗砂糖
ニ混和シテ販賣セントスルニ在リ
抑舍利別ニ稅ヲ課スルノ法ハ白耳莖國ニ於ケル許多ノ砂糖精
製場ニテ既ニ之ヲ施行セリ又仏蘭西ニ於テハ從來此法ヲ施行
セシカ合ヤ之ヲ廢シタリト云フ當時本寮ノ意見ハ「ダンカ」氏
ノ請願ヲ允可シテ從來ノ稅法ヲ改正スルニ在ルヲ以テ即チ之
ヲ閣下ニ閣陳シ若シ果シテ舍利別ノ課稅ヲ施行スルト為シ類
シノ舍利別ヨリ得ル所ノ砂糖ノ量ヲ確定スル前ニハ必ス多少
ノ時日ヲ費サハル可ラサルヲ述ハタルニ閣下ハ深く此議ヲ
嘉ミシ未タ議院ノ裁可ヲ得ルニ至ラサルモ「ダンカ」氏ヲシテ

ウエシハム製造場ノ作用ヲ廢止ロシムルヲ欲セス即チ一季間
其請願スル所ニ從テ之カ製造ヲ試ミシノ本寮ニ於テモ亦吏負
ヲ泚シ實際ニ就テ課税ノ方法ヲ考究セシメタリ然ルニ砂糖税
ニ関シテハ他日外國ニ締約スヘキ者タレハ或ハ外國政府カ自
ラ施行スル所ノ課税ノ方法ニ背馳スルヲ疑フアラシク恐ル
ルカ故ニ遂ニ白耳義國ノ法ヲ採用スルニ決シ全國ノ大藏卿ニ
因テ其要領ヲ詳ニスルヲ得タリ

白耳義國ニ於テ十五「ヤンチグラト」ノ温度ナル舍利別ノ一「ハ
クトリートル」ハ「ヤンチグラト」ノ温度ナル舍利別ノ一「ハ
ニ全一度毎ニ第二ボノ砂糖ヲ五百「グラム」ニ比均シテ其税ヲ課
ス蓋シ白耳義國ノ一「ハクトリートル」ハ英國ノ二十二瓦倫ニ全シ
ク千五百「グラム」ハ三封度ニ零六九三一八ニ當リ又「ヤンチグラ
ト」ノ一度ハ「ヤンチグラト」氏ノ「ヤツカロ」トル十度ニシテ「ヤ

ンチグラト」十五度ハ即チ華氏驗温器五十九度ニ異ナラサル
カ故ニ華氏驗温器^{九十九}度ニテ「ヤンチグラト」氏ノ「ヤツカロ」トル一
度ニ位スル舍利別一瓦倫ハ第二ボノ砂糖零一五零三封度ニ「ヤ
クト」ウ「ヤンチグラト」トシ「ヤンチグラト」トシ「ヤンチグラト」トシ
六「ヤンチグラト」トシ「ヤンチグラト」トシ「ヤンチグラト」トシ「ヤンチグラト」トシ
カハノ割合ナリ

今夫斯ノ如ク舍利別ノ課税法ヲ説明スル所以ノ者ハ他ナシ砂
糖税ノ締約ニ関スル或者カ事實ヲ誤聞シテ漫ニ我税法ハ特殊
ノ製造ヲ偏愛シテ一般ノ法則ニ背馳スルト為シ之ヲ傳稱ス
ニ依ルナリ然リ而シテ前既ニ記スルカ如ク之ヲ實驗スルノ日
ハ淺シテ其製造未タ多カラサルモ課税ニ至テハ務メテ白耳義
國ノ法ニ倣ハシクテ欲スルヤ固ヨリ弁ヲ俟タスシテ明ナルハ

然リト由テ我政府ニ歳入及ニ我邦人ニテ砂糖ヲ輸入シ或ハ精

製スル者ニ関シテ曾テ自ラ実験スル所ナク外國ノ税法ノミコ
レ信依スルハ吾人ノ欲ヤサル所ナリ故ニ本寮ノ精練室ニ於テ
之ヲ実験スルニ果シテ其法ノ公卒ナルニ近キヲ查出シタリ
依テ閣下ノ必ス白耳美ノ課税法ヲ採用セラレシヲ建設スル
ハ蓋シ亦本寮ノ任タルヘキヲ信ス

